

ウルシ実生苗の発芽処理方法の開発

研究の目的

※植物体を「ウルシ」、樹液を「漆」として表記

国宝・重要文化財の修理に原則、国産漆を使用する国の方針により、全国的に漆の生産量が増加する中、中南地域では重要文化財等の修復用だけではなく、津軽塗の材料としても漆の需要があります。しかし、中南管内におけるウルシ林の資源量は限られており、資源の造成と供給体制の整備が課題となっています。そこで、県産漆の安定供給に向け苗木生産技術の開発に取り組むこととしました。

ウルシの種子は、難透水性の厚い内果皮を持っており、発芽促進のために濃硫酸等による処理が必要とされています。しかし、濃硫酸は劇物であり作業リスクが高いことから、代替となる発芽促進方法の検討を行いました。今回はこれまでに実施した発芽促進方法による発芽率の結果を紹介します。

試験方法

・種子：県内6か所27母樹から2017年～2019年11月に採取

・発芽処理

- ①温水：70℃の温水に30分間種子を浸漬
- ②工業用洗剤：50倍水溶液に3日間浸漬
- ③ハイター：50倍水溶液に3日間浸漬
- ④木灰液1時間：水10：木灰3で混和し70℃に加熱した液に1時間浸漬後、粗面のコンクリート舗装面に1分間擦りつけ
- ⑤木灰液1分間：④と同様の方法で木灰液に1分間浸漬

・播種：2018年～2020年4月に播種

試験概要

no	播種年	処理方法	播種場所	母樹数
1	2018	温水	苗畑	3
2	2019	工業用洗剤	セルコンテナ	10
3		ハイター		10
4	2020	木灰液1時間	セルコンテナ	3
5		木灰液1分間		3
6	2018-2020	濃硫酸	苗畑	22
7		無処理	セルコンテナ	16



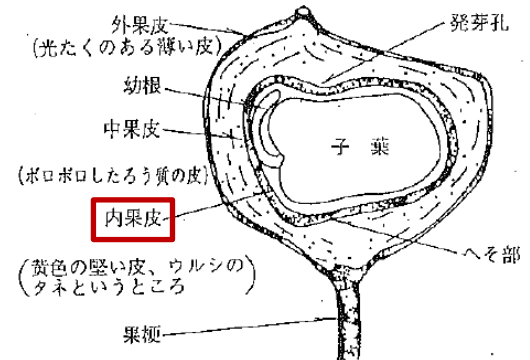
ウルシ種子(外果皮)



ウルシ種子(内果皮)



セルコンテナでの育苗



ウルシ種子の断面

漆の木, 高野徳明, 岩手県林業改良普及協会, 1982

試験結果

・3か年にわたり5種類の処理方法を試験した結果、木灰液1時間と木灰液1分間の処理で、濃硫酸と同等かそれ以上の発芽率が得られました。

・同様の処理をした場合でも母樹ごとに発芽率は異なりました。

・濃硫酸処理の発芽率は必ずしも高くなく、10%に満たない場合もあり、種子の保管方法や病害の影響が考えられました。

・今後の課題として、種子の安定生産に向け、同一母樹から複数年種子を採取した場合の年変動を明らかにする必要があります。

